

都道府県・ 指定都市番号	2 1	都道府県・ 指定都市名	岐阜県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	家庭（専門教科）
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ○地域の特性を生かした指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	ぎふけんりつおおがきさくらこうとうがっこう 岐阜県立大垣桜高等学校（578人）				
所在地（電話番号）	岐阜県大垣市墨俣町上宿 465-1（0584-62-6131）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	https://school.gifu-net.ed.jp/ogksakura-hs/				
研究のキーワード	ループリック パフォーマンス課題 地域産業の理解と企業連携 タブレット端末の活用 教科等横断的な視点に立った授業実践				
研究結果のポイント	○地域産業に着目した指導方法の工夫は、地域とともにある専門高校の生徒としての意識の醸成につながり、生徒自身が身近なところから主体的に課題を発見したり、興味・関心を高めたり、その課題解決に繋がる新たな価値観を生徒自身が気づき、今後、地域社会の活性化に貢献する人材を育成していく第一歩となった。 ○商品提案に関する指導方法については、ステップを七つに分けた段階的なパフォーマンス課題を設定し、実施した。さらに探究的な学習においてポートフォリオ課題を設定し、実施した。それらを評価する方法として、学科ループリックを作成し活用することで、生徒自身が身に付けるべき資質・能力を具体的に知ることができ、学習意欲の喚起につなげるなどの行動変容を確認ができた。 ○タブレット端末を活用した授業においては、探究的な取組における学びの軌跡の蓄積と共有や、プレゼンテーション力やコラボレーション力が必要であることに生徒自らが気づき、工夫し、改善しようとする姿がみられた。 ○教科等横断的な視点に立った授業実践では、共通教科と専門教科の教員間で、科目の学習内容や生徒の様子を共有し、より効果的な授業展開を考え実践するなど、服飾デザイン科の目指す生徒像を踏まえ、カリキュラム・マネジメントを見通した授業改善をすることができた。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

専門教科「家庭」における、地域の特性を生かした指導方法及び評価方法

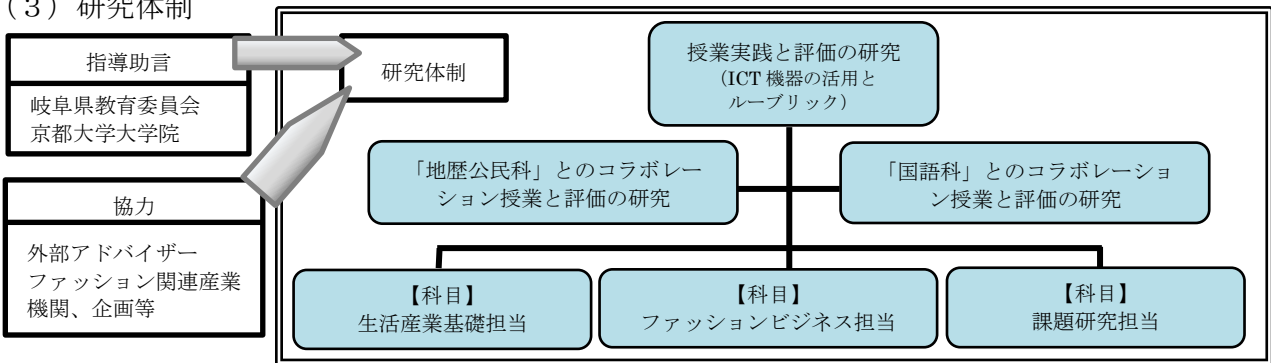
～学校と地域の間に好循環を生み出す発信方法の工夫を通して～

(2) 研究主題設定の理由

服飾デザイン科では、将来ファッション産業界で活躍できる人材育成を目標とし、プロから職業人としての心構えや、専門性の高い知識と技術を学び、資格取得や各種検定、コンクールにも積極的に挑戦している。また、平成27年度から三年間、文部科学省から指定を受け「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業」に取り組み、生徒が地域産業をより深く理解し、知識、技術を身に付けることができたと同時に、教員側も、地域のよさを生徒に伝えることの重要性を認識した。

しかしながら、地域の核となり、地域を担う職業人を育成するためには、発信という点で課題が残った。これまでの研究等を通して提案してきた作品等の成果物をどのように発信していくか、このことが学科はもとより、地域の活性化にもつながると考える。そこで、学校と地域との間に好循環を生み出す研究を進めたいと考え、産業と関わりが深い学習内容に焦点をおいた実践（科目「生活産業基礎」地場産業理解と現状の把握、学校設定科目「ファッションビジネス」ビジネス的視野の育成、科目「課題研究」地場産業PR商品の考案）を積み重ね、生徒の資質・能力の向上を可視化し、教員・生徒が評価を繰り返すことで更なる授業改善を行いたい。さらに、服飾デザイン科の約8割の生徒は高等学校卒業後、ファッションに関する上級学校へ進学し、卒業後は、地元のファッション産業で働きたいと考えていることから、地元の企業との連携をより一層、密にすることが課題であると考え。こうした課題を踏まえ、地域産業を基軸に、地域を支える職業人を育成するための指導方法や評価方法について研究したいと考え、本主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

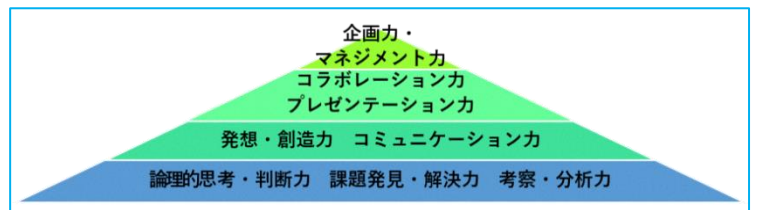
平成 30 年度	4月	研究内容及び具体的な研究活動についての検討
	6月	ルーブリック評価の見直しと学科ルーブリックの作成 パフォーマンス課題の決定と研究, 事前アンケートの実施
	7月	学校視察 (埼玉県立新座総合技術高等学校・常磐高等学校)
	9月	校内研修「ルーブリック評価について」講師: 京都大学大学院特任教授 田中容子氏
	9月	校外研修「学校公開プレゼンテーション」埼玉県立常磐高等学校
	10月	校外研修「ルーブリックを活用した学習評価」講師: コアネット教育総合研究所 松原和之氏
	11月	教育課程研究指定校事業研究授業実施 (担当教科調査官指導訪問) 研究授業と今後の研究についての見直し
	11月	校内研究「ICTを活用した授業実践と評価モデル」講師: 千葉商科大学教授 永井克昇氏
	12月	学科ルーブリック評価の実施, まとめ
	1月	中間報告書等の資料作成に向けた担当主事との打合せ
	2月	研究の成果の検証と次年度への改善策の検討, 学校ホームページへの情報掲載 国立教育政策研究所研究協議会において中間報告
	令和 元 年度	4月
5月		教科横断的視点に基づいた授業の提案と、ルーブリックの見直しと作成
6月		ICTを活用した授業検討
8月		研究内容最終告書等の資料作成に向けた担当主事との打合せ
9月		校内研修「教科等横断的な視点に立った指導とパフォーマンス課題」 講師: 京都大学大学院特任教授 田中容子氏

9月	校内研修「新入試及びポートフォリオについて」ベネッセ教育総合研究所
10月	校外研修「ICTを活用した授業研究」岐阜県立中津高等学校
10月	教育課程研究指定校事業研究授業実施（担当教科調査官指導訪問） 研究授業と今後の研究についての見直しと資料作成に向けた担当主事との打合せ
11月	校外研修「ICTを活用した授業研究」岐阜聖徳学園高等学校
12月	学校視察と公開授業（熊本県立第二高等学校）
2月	研究の成果の検証と次年度への改善策の検討，学校ホームページへの情報掲載 国立教育政策研究所研究協議会において報告

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

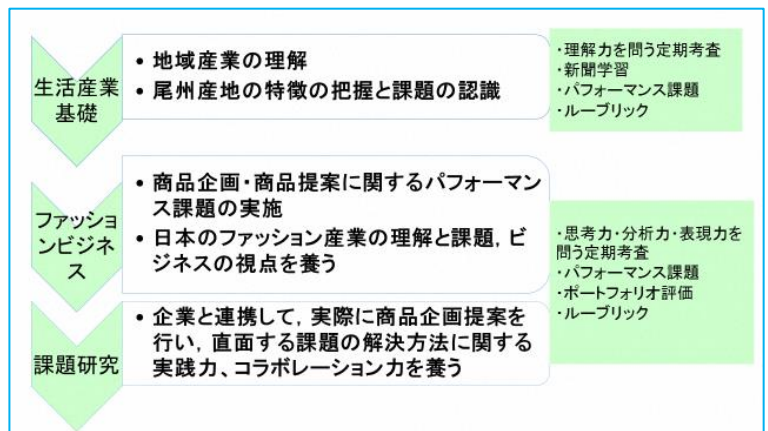
- ① 科目「生活産業基礎」「ファッションビジネス」「課題研究」における指導方法及び評価項目と方法の研究
パフォーマンス課題の実施と学科ループリック，ポートフォリオによる評価と検証
- ② ICTの効率的，効果的な活用
タブレット端末を活用した効果的な指導方法と評価方法の検討
- ③ 教科等横断的視点に立った授業実践と検証



＜図1 八つの資質・能力＞

(2) 具体的な研究活動

- ① 服飾デザイン科の目指す生徒像から，学科で身に付けたい力を再確認し，必要な資質・能力を八つ（図1）とした。測定の方法は八つを評価項目として設定し，評価規準をSABCDの五段階とした学科ループリックを作成し，パフォーマンス課題を中心とした評価を行った。



＜図2 地域産業と関連した三年間の指導内容＞

科目「生活産業基礎」「ファッションビジネス」「課題研究」における指導方法及び評価項目と評価方法の研究において，

地域を担う職業人を育成するためには，地域産業と関連した指導内容の確立が必要であり，精選（図2）を行った。科目「ファッションビジネス」「課題研究」では，地方発信のファッションビジネスの特徴を観察・分析し，今後，企画提案するオリジナル商品の魅力や価値を高めるために必要な視点を見つけ出すために，段階ごとにパフォーマンス課題を実施し，ループリックで評価した。この学習内容を通して，生徒に身に付けたい資質・能力をループリックで認識させた。定期考査では，「課題発見力・考察力・分析力・論理的思考力」を測るために地域発信のファッションビジネス事情に関する記述式の問題を出した。

- ② ICTの効率的，効果的な活用

タブレット端末を使用して，生徒の探究的な取組における学びの奇跡の蓄積と共有や，生徒間の思考・分析・発想・創造データを共有できるアプリの活用により，プレゼンテーション力

やコラボレーション力が必要であることに生徒自らが気付き、工夫、改善しようとする姿がみられた。

③ 教科横断的視点に基づいた授業実践と検証

共通教科と専門教科において教科横断的な視点に基づいた学習の実施(図3)を行った。「現代社会」では、中小企業の総論的な課題を、「生活産業基礎」では地域産業の各論的な課題について取り上げ、広い視野からの論理的思考力を育むことができるよう指導方法を工夫した。

共通教科と専門教科双方向の学習内容の理解と、身に付けさせたい資質・能力について共通認識する機会を設定し、カリキュラム・マネジメントを踏まえた教科等横断的な視点に立った授業計画(図4)について検討した。

- ・ <実践例>
- ・ 国語総合×生活産業基礎 学習のまとめ(表現力)
- ・ ファッションデザイン×数学Ⅰ テキスタイルデザインの考案
- ・ ファッションデザイン×日本史A 服装史
- ・ ファッションビジネス×数学Ⅰ 比や割合=原価計算
- ・ 現代社会×生活産業基礎 中小企業の理解
- ・ ファッションデザイン×美術Ⅰ 色彩における減法混色

<図3 実践例と学習効果>

10月	7時間	2衣生活関連産業の職業と資格 (1)ファッション産業のしくみ (2)衣生活関連の職業と資格	国語科 文章表現、新聞要約、意見のまとめ方
11月	7時間	・地域産業の理解 ・アパレル企業研究 ・校外研修 【後期中間考査】	公民科 中小企業が抱える問題
12月	6時間	(3)ファッション製品の基礎	
後期		第7章 職業生活と自己実現	
1月	7時間	1職業生活と生きがい (1)職業に就き働く意義 (2)職業と自己実現 (3)社会の変化と職業生活	公民科 主権者教育
2月		2将来の生活と学業	
3月	8時間	(1)将来設計と進路計画の立案 (2)学習計画の立案 【学年末考査】	進路指導部 キャリアデザイン

<図4 生活産業基礎と普通教科との横断的視点>

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 外部講師を招聘し全職員で評価について研修することで、学科や科目に応じた評価方法について共通理解を図るとともに、課題を共有することができた。
- 学科の目指す生徒像から八つの資質・能力を設定し、3年間を見通した学科ルーブリックを作成し、評価規準を明確にでき、科目「生活産業基礎」「ファッションビジネス」「課題研究」において、授業内容に合わせたパフォーマンス課題やポートフォリオ課題、学科ルーブリックの効果的な活用を工夫することができた。
- タブレット端末やアプリ活用により、生徒の思考力、分析力等が高まり効果的な授業ができた。
- 教科等横断的な視点に立った取組は、生徒の特性を生かした効果的な授業実践ができ、今後、本学科の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを見つめる良い機会となった。
- 教科横断的な視点においては、新学習指導要領を踏まえ、三年間の学習内容や生徒の実態を踏まえ十分検討し推進する必要がある。

4 今後の取組

- 学科ルーブリックについて、今後も生徒がより具体的に理解できる表現に改め、身に付いた資質・能力の確認を行うとともに、教員と生徒の共通認識を図る。新学習指導要領に基づき評価規準については年間指導計画に基づき、評価計画を設定するなど見直しをする。
- 課題や定期考査等に、資質・能力を活用できるような論理的思考力を問う方法を検討し、生徒の深い学びに繋げる。
- 教科等の本質を踏まえたものの見方・考え方を獲得させ、横断的な視点において多視点から見たり考えたりできるよう、教育課程に基づいたカリキュラム・マネジメントを進めていきたい。